

2012年 診療・介護報酬同時改定を読む

石心会理事長 石井 暎禧

今回の診療報酬の改定は、医療保険と介護保険の同時改定でした。これは6年ぶりのことであり、医療と介護にかかわる大きな改定はこの時にしかできません。そのため今回は医療・介護の行方を考えるにあたって重大な意味をもつものとして注目されてきたのです。折しも今年は、6月に川崎幸病院の新築移転を控え、石心会グループの今後を占う意味でも非常に重要な出来事だといえるでしょう。

結果的に見ると、改定幅がプラスとはいっても、全体としては極めて小幅に終わりました。しかし、今後の医療政策の方向がはっきりと示されたという点では大きな意味がありました。ひと言で言えば、高齢化が進む日本社会に対応するため、すべての医療・介護施設の機能を分化させ、効率化させることを目指した改定だといえるのです。

今次改訂の特徴として、医療法改正による「急性期病床」という類型が唐突に提案され、また診療報酬改定においては、「医療機関群」別の基礎係数が導入され、DPC(診断群分類包括評価)病院は3つの群へ分類されました。それだけでなく、1人の看護師が7人の患者さんを受け持つ7対1看護体制の要件も、入院患者の重症度を反映する方向へ要件が厳しく規制されることになりました。これらのことは、医療法改正を待たずに高度急性期と一般急性期の分化を実質上強制しようとしていると言えます。もはやこれまで行われて来た医療法改正による機能分化や、それを助ける地域医療計画という手法では、急激な下降曲線をたどる日本社会の速度に追いつかないという危機感あふれる対応と見なくてはなりません。こうした、日本社会の負担と保障の全体の設計図は、既に「社会保障と税の一体改革」案として政府が示している通りです。

川崎幸病院の新病院への新築移転は、予想されたこのような医療政策の転換を先取りして意識することによって企画・実行されてきました。今年、川崎幸病院が、数少ない医療法人病院であるDPC基礎係数の第Ⅱ群に入りましたが、それというのも旧病院が、設備は不完全ながらも、意識的な取り組みをしてきた結果によるものです。狭山病院は、今回惜しくもⅢ群になりましたが、競合の少ない地域の中核的急性期病院から、危機感をもってさらに広域のぬきんでた高機能病院として脱皮することを目指し、次回改訂時までの到達目標としてⅡ群に入る内容を整えたいと思います。そして、その延長上に新病院を次の時代にふさわしいものとして企画・立案したいと思います。

言うまでもなく今回の改定は、病院だけの問題ではなく、医療と介護のあらゆる分野で機能分化と連携に関係する多くの項目にわたっています。私たちは、社会の変化と潮流を先読みし、常に社会が必要とする分野は何であるのかを考え、全事業所が地域社会での自分たちの役割を明確にし、機能を充実させ、体制を整備して変化に対応していかなければならないと考えます。がんばりましょう。

327床になる川崎幸病院（川崎市重症救急ベッドの行方）

【はじめに】

川崎市は昨年5月、市立病院の遊休病床62床を重症救急病床として民間病院に配分するための病院の公募を行いました（川崎市重症患者救急対応病院募集）。そして本年4月1日「川崎幸病院を唯一の指定病院とする」ことでこの問題は決着を見ました。この後5月末に神奈川県審査を経て最終的には厚生労働省の決定により病床を増やすことになります。見通しとして新・川崎幸病院は6月開院からそれほど遠くない時点で新たに62床の病床を得て327床となる見込みです。

【経過】

このような結果を得た直接の理由は、もう1つのエントリー病院である日本医大武蔵小杉病院が、募集要項にある85%以上の病床利用率を満たせなかったことにありました。裏を返せば川崎幸病院の実績（救急車受け入れ数が市内で市立川崎病院に次ぎ2位、病床利用率95%）がものを言ったということです。しかし決定までの経過は、そう単純には進みませんでした。

はじめ川崎市は、内々に62床を日本医大武蔵小杉病院と分け合うよう提案してきました。これに対し私たちは、①日本医大の位置する中原区は病床過剰地域であること。②それゆえ日本医大は空き病床が多く、ベッドは不足していないこと。③川崎幸病院の位置する幸区は極端な病床不足地域であり、その中で川崎幸病院は慢性的な病床不足に悩まされていることを理由として、この提案を断りました。

このことで他院と比べて圧倒的な当院の救急実績にもかかわらず、行政の認識はきわめて軽いものであることに、私たちは大きなショックを受けました。さらに、その後開催された川崎市地域医療審議会救急対策部会のヒアリングに出席しましたが、川崎幸病院の発展を望まない勢力が存在することを知り、私たちは最終的に署名活動に踏み切る決断したのです。結果は既報のように82,735人という記録的な署名を得ることができました。

この膨大な署名数が、川崎市当局や医療に携わる人たちの認識を変えたことは間違いありません。

【署名活動が教えてくれたこと】

まず、救急医療の必要をテーマにした私たちの署名活動に対して、熱烈な支援をくださった地域住民の方々の反応には驚かされました。高齢化社会が進行し、高齢者が向き合わねばならない身体の急変に対処する社会的体制が脆弱であることを、地域住民の皆さんは肌で感じている事実を実感しました。

また同時に川崎幸病院が、いかに地域の人々から期待されているかを知る良い機会となりました。署名

活動を通じ、私たちはこのような地域の人たちの危機感を十分理解し、住民の皆さんに寄り添うことによって相互に連帯感を獲得できたのです。

今回の活動は、人口140万人の大都市、川崎市の行政当局にとって大きな関心事となりました。その中で幸区の置かれた救急医療の環境と川崎幸病院の役割について、川崎市の認識は大きく変わったはずです。

真実は力に支えられて輝くことも忘れてはならない大事な教訓です。

【新・川崎幸病院のミッション】

私たちは「救急車を断らない病院作り」を標語に掲げて、この運動を展開したことを忘れてはなりません。「重症救急病床」の62床は、それを含めた病院全体の病床利用率が85%以上であること、つまり病床が当初の目的通り使用されているかどうか等を、5年ごとに市がチェックすることになっています。私たちは、そのような最低限の目標はクリアして当然であると考えています。新・川崎幸病院の当面の目標として、「病床利用率は100%、救急車の受け入れは1万台」に設定しています。

次に私たちは、市民の財産である市立病院の貴重な病床を頂くわけですから川崎市の行政目標に協力し、市立病院と連携して市民の医療環境の向上に全力を挙げて取り組まなければなりません。また、結果として川崎市重症患者救急対応病院の指定を巡って争うことになった日本医大武蔵小杉病院は、今回は対象とならなかった周産期・小児救急に実績のある病院です。従って十分な敬意を持って地域連携をする必要があります。

そのほか、今回私たちを支援して共に活動頂いた市議の方達に対する感謝の念も忘れてはならないことです。

そして良識あるすべての地域住民から、川崎幸病院が唯一の「重症患者救急対応病院」に決まって本当に良かったと言ってもらえるよう頑張りたいと思います。

（専務理事・石心会重症病床確保担当理事・辻田征男）



新・川崎幸病院の竣工式を行いました

平成21年秋より建築が進められていた新・川崎幸病院の竣工式が、平成24年3月8日（木）に行われました。竣工式には、新建屋の建築に携わった設計会社、建設工事関係者など30名が列席。石心会グループからは、

石井暎禧理事長、辻田征男専務理事・事務局長、川崎幸病院の小林和彦事務部長、佐藤久美子看護部長らが出席し、石井理事長らが神前に玉串を納めました。

いよいよ新病院開院は6月1日。石心会グループの総力を挙げ、準備を進めて参ります。



新入職員184名が出席し、入社式が行われました

「平成24年度 石心会グループ入社式」が4月2日、石心会本部があるソリッドスクエアにて行われました。

入社式には184名の職員らが出席し、石井暎禧理事長から辞令を受けました。また、東京交響楽団による音楽の演奏が行われ、新入職員を歓迎しました。





新看護師寮「アゼリア」完成、入居を開始

平成23年から建築が進められていた狭山地区の新・看護師寮「アゼリア」が完成し、3月末から入居を開始しました。4階建て56室のワンルームからなるマンションタイプで、狭山病院から徒歩約3分と便利な立地。24時間セキュリティ、全室テレビ付インターホン、留守用の宅配ロッカーなど、安全性と利便性に優れ、狭山地区で働く看護師たちの支えとなっていく予定です。



3月2日に行われた竣工式には、石心会本部の辻田征男専務理事・事務局長のほか、狭山病院の持田和夫事務部長、粕谷文子看護部長らが出席し、神前に玉串を納めました。

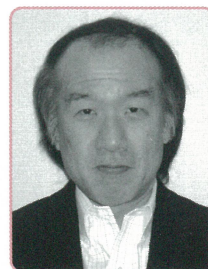


狭山病院・副院長 山根 正久医師が「CTO(慢性完全閉塞)Club」で、手技を中継

CTO(慢性完全閉塞)病変は、合併症や再狭窄のリスクが高く、心カテーテルの手技に高いレベルが必要とされています。狭山病院の山根正久医師は、このCTOに有効な「逆行性」と呼ばれる特殊な手技を実践し、ベルギーの心臓病センター(OLV Aalst)で招へい教授を務めるなど、世界的にその手技レベルを評価されてきました。

このたび、6月15、16日に名古屋で行われるセミナー「CTO Club」で、日本の著名な先生方とともに山根

医師がデモンストレーションを行うことが決定しました。狭山病院に映像の中継器が設置され、世界各国から名古屋に集まったカテーテル治療専門医師らが、各医師の手技を見て学びます。困難とされているCTO治療の成功率向上につながることを期待されています。



山根 正久医師



「地域医療研究会 全国大会2013 in 埼玉」を青山 壽久・狭山地区統括院長が開催へ

2013年9月15・16日、東京国際フォーラムにて

地域医療研究会の2013年全国大会で、同研究会の世話人でもある青山壽久・狭山地区統括院長が大会会長を務めることが決定しました。地域医療研究会は、医療・福祉・介護にわたって議論・発表する唯一の場として、30年以上前に発足した任意団体。全国大会は2年に一度行われ、1000人以上の参加者が、さまざまなテーマについて学びます。

「常に時代を先取りしてきた地域医療研究会とし

て、前回の高知大会同様、少子高齢化を背景にしたテーマになると考えています」と青山統括院長。開催は、2013年9月15・16日(日・月)に東京国際フォーラムにて。みなさんの協力をお願い致します。

盛り上げましょう!



青山 壽久統括院長



第3回石心会・東京石心会「透析施設交流会」昭島にて4月15日に開催、約200名が参加

石心会と東京石心会の「透析施設交流会」が4月15日、昭島市で開かれました。慢性腎不全・透析にかかわる職員が一同に会する場として2010年に始まり3回目。主催者となる昭島腎クリニックの栗本義直院長は「この研究会で色々な疑問点、質問を出し合い、少しでも新しい情報を手に入れてください」と挨拶しました。



今回は「川崎クリニック」「川崎幸病院」「さいわい鹿島田クリニック」「さやま腎クリニック」「狭山病院」「立川新緑クリニック」「昭島腎クリニック」の7施設から約200名の職員が集まり、研究発表や意見交換などをし、有意義な時間を過ごしました。

来年度は、さいわい鹿島田クリニック(朝倉裕士院長)主催で、川崎市内で開催予定です。



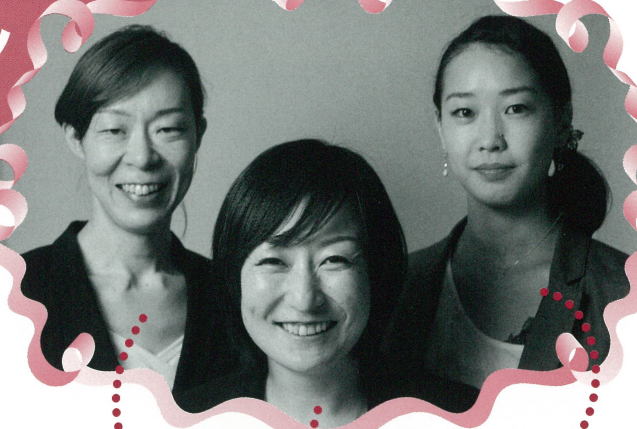
「全日本クラブバスケットボール 選手権」3位の快挙！ 石心会のバスケットウーマン 3名が喜び語る

2012年3月、石心会から3名の勇敢なる
バスケットウーマンが誕生しました。

プロを除くクラブチームの日本一を決定する最高峰の大会

「全日本クラブバスケットボール選手権大会」で
見事3位という成績を納めたチーム『mamas』。

そのキャプテンら3名が、石心会の職員だったのです。



中野 都香沙さん
(本部事務局戦略PR担当)

副キャプテン: 渡邊 みさ子さん
(川崎幸病院医療クラーク課長)

キャプテン: 鍋島 紋子さん
(本部事務局局長補佐戦略PR担当)

約20年前の結成以来、八王子市大会 1 回戦敗退を繰り返していたチームは、約15年前に鍋島紋子さん(現キャプテン)の参加をきっかけに、選手強化の一途を辿ります。そして遂に今年度、市・都・関東大会を勝ち抜き、全国大会で3位という快挙を達成。石心会を代表するバスケットウーマン3人が、チーム躍進の鍵について語りました。

★副キャプテン: 渡邊 みさ子さん(バスケ歴23年)

「リーダーの方針をうまく噛み砕いてチームメイトに伝えるのが私の役割です。人によって受け止め方は千差万別なので、それぞれに合う伝え方が大切です。チームをまとめる秘訣は、**お互いの長所を褒め合う**こと。認め合うことで一人ひとりが伸び伸びプレイでき、チームに120%貢献しようと自発的に考えるようになりました」

★キャプテン: 鍋島 紋子さん(バスケ歴28年)

「**チームの方針がブレない**ことが大切です。その方針とは『チーム全員の力で上を目指す』。どんなにスキルが高くても、チームメイトへの思いやりがない選手は必要ありません。意見や認識の食い違いやメンバーの離脱など、試行錯誤を繰り返した10数年でした。しかしどんな状況でも、チームの方針だけは変わらず貫き、訴え続けてきました」

★中野 都香沙さん(バスケ歴18年)

「チームの強みは、思いやりです。チームメイト一人ひとりのスキルや経験は違いますが、それを理解して、お互いのパーソナリティを尊重する。**何より全員がこのチームを愛しています!**」



「次なる目標は当然、全国大会優勝で〜す!!
夢に上限はありません」

いま求められる医療をもっと高めたい

さいわい
川崎幸病院は
2012年 6月/1日
川崎駅前に
《新築移転》します

川崎幸病院と中原分院は
統合して川崎駅前に移転します

川崎幸クリニックは、新病院開院後も
現在地にて変わらず診療いたします

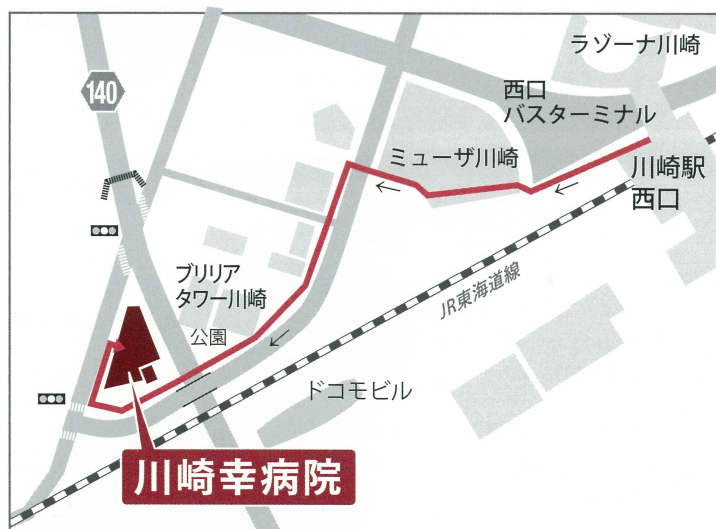


新・川崎幸病院内覧会

5月13日(日)
医療関係者向け
受付時間 9:30~15:30

5月20日(日)
一般向け
受付時間 9:30~15:30

- 川崎幸病院は入院と救急外来・紹介外来のみの診療を行う施設です。
- 救急外来については24時間365日受診可能です。



●川崎幸病院のアドレスが変わりました。〈新アドレス〉 <http://www.saiwaihp.jp/>

掲載記事・ご意見
募集中

「海燕」では、より多くの事業所の活動・意見を伝えていきたいと考えております。

掲載記事の情報・ご意見・ご質問など、お待ちしております。

●連絡先：石心会本部 事務局
i-tsujita@sekishinkai.or.jp(辻田)
m-nishiyama@sekishinkai.or.jp(西山)
yoshie-noguchi@sayamahp.org(野口)